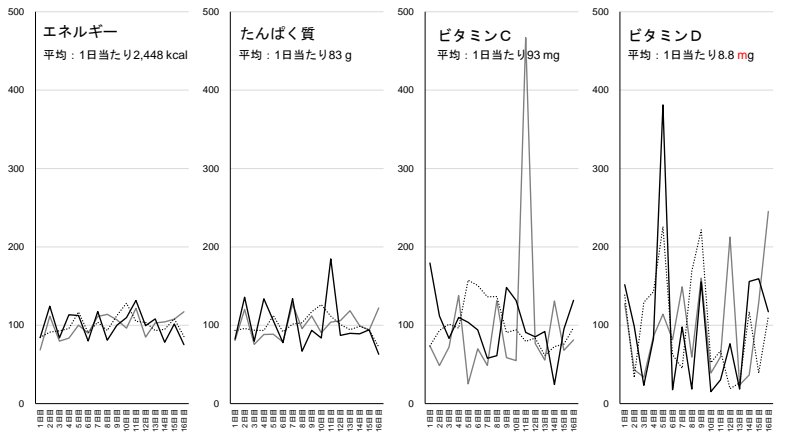
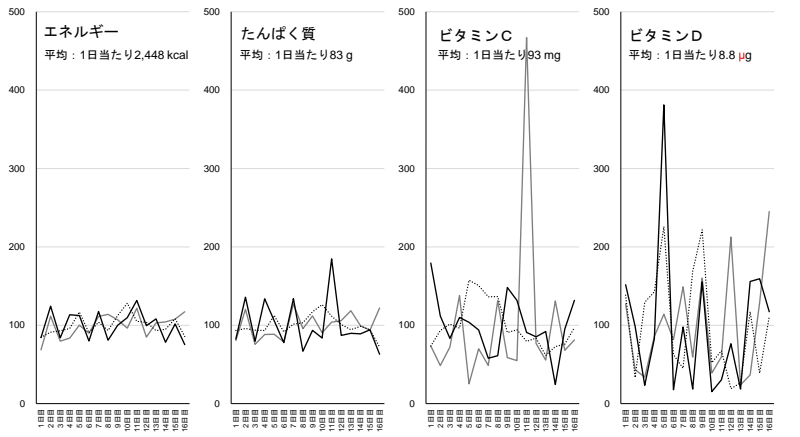


「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会報告書正誤表

「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会報告書において、掲載内容に誤りがございました。ご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、以下のとおり訂正させていただきます。なお、HP上に掲載されている内容につきましては、修正が反映されております。

頁	該当箇所	誤	正
30	図 10		
30	図 10 脚注	<p>参考文献 34 で用いられた男性（121 人）のデータから無作為に 3 人を取り出したもの（図 9 と同一対象者）。</p>	<p>参考文献 34 で用いられた男性（121 人）のデータから無作為に 3 人を取り出したもの（図 9 と同一対象者）。</p> <p><u>縦軸は、(当該日の摂取量) × 100 / (16 日間の平均摂取量) のパーセンテージ (%)。</u></p>

41	図 15																						
60	図 5 脚注	<p>(略) 実際には、体重の変化(減少)に伴い、食事制限も緩んでいく^{39,40)}ため、図 8よりも体重減少の曲線はより急激に緩徐となる。当初は、100 kcal/日以上エネルギー摂取量の制限で開始しても、最終的に 100 kcal/日の制限まで増加して、2 kg の減量が達成、維持されることになる。</p>	<p>(略) 実際には、体重の変化(減少)に伴い、食事制限も緩んでいく^{39,40)}ため、図 5よりも体重減少の曲線はより急激に緩徐となる。当初は、100 kcal/日以上エネルギー摂取量の制限で開始しても、最終的に 100 kcal/日の制限まで増加して、2 kg の減量が達成、維持されることになる。</p>																				
65	14～16 行目	<p>この観察値から代表値(体重 1 kg 当たりの基礎代謝<u>基準値</u>)を求めた(表 3)。これに参照体重を乗じると参照体重の場合の基礎代謝基準値となる。</p>	<p>この観察値から代表値(体重 1 kg 当たりの基礎代謝<u>量</u>)を求めた(表 3)。これを<u>体重 1 kg 当たりの基礎代謝量基準値</u>とし、参照体重を乗じると参照体重の場合の基礎代謝<u>量</u>基準値となる。</p>																				
65	表 2	<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">Schofield の式</td> <td rowspan="2">18～29</td> <td>(0.0063×W+2.896)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.0062×W+2.036)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30～59</td> <td>(0.0048×W+3.653)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.0034×W+3.536)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">60 以上</td> <td>(0.0049×W+2.459)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.0038×W+2.755)×1,000/4.186</td> </tr> </table>	Schofield の式	18～29	(0.0063×W+2.896)×1,000/4.186	(0.0062×W+2.036)×1,000/4.186	30～59	(0.0048×W+3.653)×1,000/4.186	(0.0034×W+3.536)×1,000/4.186	60 以上	(0.0049×W+2.459)×1,000/4.186	(0.0038×W+2.755)×1,000/4.186	<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">Schofield の式</td> <td rowspan="2">18～29</td> <td>(0.063×W+2.896)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.062×W+2.036)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30～59</td> <td>(0.048×W+3.653)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.034×W+3.538)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">60 以上</td> <td>(0.049×W+2.459)×1,000/4.186</td> </tr> <tr> <td>(0.038×W+2.755)×1,000/4.186</td> </tr> </table>	Schofield の式	18～29	(0.063×W+2.896)×1,000/4.186	(0.062×W+2.036)×1,000/4.186	30～59	(0.048×W+3.653)×1,000/4.186	(0.034×W+3.538)×1,000/4.186	60 以上	(0.049×W+2.459)×1,000/4.186	(0.038×W+2.755)×1,000/4.186
Schofield の式	18～29	(0.0063×W+2.896)×1,000/4.186																					
		(0.0062×W+2.036)×1,000/4.186																					
	30～59	(0.0048×W+3.653)×1,000/4.186																					
		(0.0034×W+3.536)×1,000/4.186																					
	60 以上	(0.0049×W+2.459)×1,000/4.186																					
		(0.0038×W+2.755)×1,000/4.186																					
Schofield の式	18～29	(0.063×W+2.896)×1,000/4.186																					
		(0.062×W+2.036)×1,000/4.186																					
	30～59	(0.048×W+3.653)×1,000/4.186																					
		(0.034×W+3.538)×1,000/4.186																					
	60 以上	(0.049×W+2.459)×1,000/4.186																					
		(0.038×W+2.755)×1,000/4.186																					

66	表 3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> <th colspan="3">男性</th> <th colspan="3">女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年齢 (歳)</td> <td>図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)</td> <td>参照体重 (B) (kg)</td> <td>参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)</td> <td>図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)</td> <td>参照体重 (B) (kg)</td> <td>参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)</td> </tr> </tbody> </table>	性別	男性			女性			年齢 (歳)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> <th colspan="3">男性</th> <th colspan="3">女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年齢 (歳)</td> <td>図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)</td> <td>参照体重 (B) (kg)</td> <td>参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)</td> <td>図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)</td> <td>参照体重 (B) (kg)</td> <td>参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)</td> </tr> </tbody> </table>	性別	男性			女性			年齢 (歳)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)
性別	男性			女性																											
年齢 (歳)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)																									
性別	男性			女性																											
年齢 (歳)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)	図9における 観察値から 推定した体重 1 kg 当たりの 基礎代謝量 (A) (kcal/kg 体重/日)	参照体重 (B) (kg)	参照体重の 場合の基礎 代謝量基準値 (A) × (B) (kcal/日)																									
70	8 行目 11 行目 16 行目 24 行目	体重 1 kg 当たりの基礎代謝基準値	体重 1 kg 当たりの基礎代謝量基準値																												
78	参考表 2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>身体活動レベル¹</td> </tr> <tr> <td>75 以上 (歳)</td> </tr> </tbody> </table>	性別	身体活動レベル ¹	75 以上 (歳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>身体活動レベル¹</td> </tr> <tr> <td>75 以上 (歳)²</td> </tr> </tbody> </table>	性別	身体活動レベル ¹	75 以上 (歳) ²																						
性別																															
身体活動レベル ¹																															
75 以上 (歳)																															
性別																															
身体活動レベル ¹																															
75 以上 (歳) ²																															
90	5 行目	9～14 か月児について検討された結果 (1 歳児における体重維持の場合の利用効率が 70% ⁶)を用いた。	9～14 か月児について検討された結果 (1 歳児における体重維持の場合の利用効率が 70% ⁶)を用いた。																												
90	24 行目	0～5 か月児の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)	0～5 か月の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)																												
109	表 3 脚注	** <u>8</u> 日間秤量食事記録調査 (個人法) からの習慣的摂取量。	** <u>3</u> 日間秤量食事記録調査 (個人法) からの習慣的摂取量。																												
134	15 行目、23 行目	表 <u>2</u>	表 <u>1</u>																												
135	表 2	表 <u>2</u>	表 <u>1</u>																												
147	下から 1 行目	これらの合計摂取量の残余 <u>を</u> 炭水化物の目標量 (範囲) を算定した。	これらの合計摂取量の残余 <u>として</u> 炭水化物の目標量 (範囲) を算定した。																												
153	17 行目	移行蓄積量を付加しなければならない。	移行蓄積量を付加しな <u>け</u> ればならない。																												

154	23～36 行目	成人では肝臓へのビタミンAの過剰蓄積による肝臓障害 ²⁶⁾ を指標にし、最低健康障害発現量を 13,500 μgRAE/日とした。不確実性因子を 5 として耐容上限量は 2,700 μgRAE/日とした。 <u>なお、18～29 歳男性では、丸め処理を行うと 800 μgRAE/日となるが、前後の年齢区分の値 (900 μgRAE/日) との連続性を勘案し、850 μgRAE/日とした。</u> 高齢者は、独自の値を設定できるだけの根拠が得られなかったため、成人と同じとした。	成人では肝臓へのビタミンAの過剰蓄積による肝臓障害 ²⁶⁾ を指標にし、最低健康障害発現量を 13,500 μgRAE/日とした。不確実性因子を 5 として耐容上限量は 2,700 μgRAE/日とした。高齢者は、独自の値を設定できるだけの根拠が得られなかったため、成人と同じとした。
156	8 行目	<u>図 1</u>	<u>図 2</u>
157	3 行目	2 指標設定の基本的考え方	2 指標設定の基本的 <u>な</u> 考え方
160	23 行目	不確 <u>定</u> 因子	不確 <u>実性</u> 因子
163	7 行目・図 4	<u>図 4</u>	<u>図 3</u>
168	7 行目・図 5	<u>図 5</u>	<u>図 4</u>
187 191 196 200 209 221 295 306	・授乳婦の付加量 (推定平均必要量、推奨量)	0～5 か月 <u>児</u> の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)	0～5 か月の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)
195	3-1-1 見出し	必要 <u>求</u> 量を決めるために考慮すべき事項	必要量を決めるために考慮すべき事項
199	下から 4～5 行目	血漿 PLP 濃度を 30 nmol/L に維持できるビタミンB ₆ 量は、PN 摂取量として 0.014 mg/g たんぱく質である (<u>図 8</u>)。	血漿 PLP 濃度を 30 nmol/L に維持できるビタミンB ₆ 量は、PN 摂取量として 0.014 mg/g たんぱく質である (<u>図 7</u>)。
221	21 行目	推奨量は、推定平均必要量に推 <u>定</u> 量算定係数 1.2 を乗じた値とした。	推奨量は、推定平均必要量に推 <u>奨</u> 量算定係数 1.2 を乗じた値とした。

243	下から 12 行目	心房性ナトリウム利 <u>用</u> ペプチド	心房性ナトリウム利 <u>尿</u> ペプチド																												
245	12 行目	0～5 か月 <u>児</u> の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)	0～5 か月の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)																												
249	2 行目	日本腎臓病学会	日本腎臓学会																												
282	カリウムの食事摂取基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">性別 年齢等</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>目安量</th> <th>目標量</th> <th>目安量</th> <th>目標量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2 (歳)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	性別 年齢等	男性		女性		目安量	目標量	目安量	目標量	1～2 (歳)	-	-	-	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">性別 年齢等</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>目安量</th> <th>目標量</th> <th>目安量</th> <th>目標量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2 (歳)</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>800</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	性別 年齢等	男性		女性		目安量	目標量	目安量	目標量	1～2 (歳)	900	-	800	-
性別 年齢等	男性			女性																											
	目安量	目標量	目安量	目標量																											
1～2 (歳)	-	-	-	-																											
性別 年齢等	男性		女性																												
	目安量	目標量	目安量	目標量																											
1～2 (歳)	900	-	800	-																											
306	下から 9 行目	0～5 か月 <u>児</u> の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)	0～5 か月の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)																												
307	7 行目	先に述べたように、血漿・血清銅濃度は、銅の摂取量 0.57～6.9 mg/日の範囲で一定である <u>99)</u> 。	先に述べたように、血漿・血清銅濃度は、銅の摂取量 0.57～6.9 mg/日の範囲で一定である <u>102)</u> 。																												
311	2 行目	0～5 か月 <u>児</u> の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)	0～5 か月の乳児の基準哺乳量 (0.78 L/日)																												
357	表 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">栄養素</th> <th rowspan="2">推定平均 必要量³</th> <th rowspan="2">推奨量³</th> <th rowspan="2">目安量</th> <th rowspan="2">目標量</th> </tr> <tr> <th>たんばく質 (g/日)</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>+20</td> <td>+20</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	栄養素	推定平均 必要量 ³	推奨量 ³	目安量	目標量	たんばく質 (g/日)	後期		+20	+20	-	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">栄養素</th> <th rowspan="2">推定平均 必要量³</th> <th rowspan="2">推奨量³</th> <th rowspan="2">目安量</th> <th rowspan="2">目標量</th> </tr> <tr> <th>たんばく質 (g/日)</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>+20</td> <td>+25</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	栄養素	推定平均 必要量 ³	推奨量 ³	目安量	目標量	たんばく質 (g/日)	後期		+20	+25	-	-				
栄養素	推定平均 必要量 ³	推奨量 ³						目安量	目標量																						
			たんばく質 (g/日)	後期																											
	+20	+20	-	-																											
栄養素	推定平均 必要量 ³	推奨量 ³	目安量	目標量																											
					たんばく質 (g/日)	後期																									
	+20	+25	-	-																											
357	表 1 脚注	⁸ 妊婦及び授乳婦の耐容上限量は 2,000 mg/日とした。	⁸ 妊婦及び授乳婦の耐容上限量は 2,000 μg/日とした。																												
363	表 3 脚注	⁶ 妊婦及び授乳婦の耐容上限量は 2,000 mg/日とした。	⁶ 妊婦及び授乳婦の耐容上限量は 2,000 μg/日とした。																												
369	1 行目	2-3 乳児用調製粉乳等による栄養素摂取	2-3 乳児用調製乳等による栄養素摂取																												
391	2 行目	<u>表 1 に挙げた 5 項目</u> 、すなわち、①体重減少、②主観的疲労感、③日常生活活動量の減少、④身体能力 (歩行速度) の減弱、⑤筋力 (握力) の低下のうち 3 項目以上が当てはまればフレイルとし、1～2 項目が当てはまる場合はフレイル前段階 (プレフレイル) と定義する <u>47)</u> 。	すなわち、①体重減少、②主観的疲労感、③日常生活活動量の減少、④身体能力 (歩行速度) の減弱、⑤筋力 (握力) の低下のうち 3 項目以上が当てはまればフレイルとし、1～2 項目が当てはまる場合はフレイル前段階 (プレフレイル) と定義する <u>47)</u> 。																												

392	図 1																																										
394	10 行目	表 4~7	表 3~6																																								
395	表 4	表 4	表 3																																								
395	表 5	表 5	表 4																																								
396	表 6	表 6	表 5																																								
396	表 7	表 7	表 6																																								
405	表 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リスク層</th> <th>高値血圧 130-139/80-89 mmHg</th> <th>I度高血圧 140-159/90-99 mmHg</th> <th>II度高血圧 160-179/100-109 mmHg</th> <th>III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リスク第一層 予後影響因子がない</td> <td>低リスク</td> <td>低リスク</td> <td>中等リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> <tr> <td>リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある</td> <td>中等リスク</td> <td>中等リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> <tr> <td>リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> </tbody> </table>	リスク層	高値血圧 130-139/80-89 mmHg	I度高血圧 140-159/90-99 mmHg	II度高血圧 160-179/100-109 mmHg	III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg	リスク第一層 予後影響因子がない	低リスク	低リスク	中等リスク	高リスク	リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある	中等リスク	中等リスク	高リスク	高リスク	リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある	高リスク	高リスク	高リスク	高リスク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リスク層</th> <th>高値血圧 130-139/80-89 mmHg</th> <th>I度高血圧 140-159/90-99 mmHg</th> <th>II度高血圧 160-179/100-109 mmHg</th> <th>III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リスク第一層 予後影響因子がない</td> <td>低リスク</td> <td>低リスク</td> <td>中等リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> <tr> <td>リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある</td> <td>中等リスク</td> <td>中等リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> <tr> <td>リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> <td>高リスク</td> </tr> </tbody> </table>	リスク層	高値血圧 130-139/80-89 mmHg	I度高血圧 140-159/90-99 mmHg	II度高血圧 160-179/100-109 mmHg	III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg	リスク第一層 予後影響因子がない	低リスク	低リスク	中等リスク	高リスク	リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある	中等リスク	中等リスク	高リスク	高リスク	リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある	高リスク	高リスク	高リスク	高リスク
リスク層	高値血圧 130-139/80-89 mmHg	I度高血圧 140-159/90-99 mmHg	II度高血圧 160-179/100-109 mmHg	III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg																																							
リスク第一層 予後影響因子がない	低リスク	低リスク	中等リスク	高リスク																																							
リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある	中等リスク	中等リスク	高リスク	高リスク																																							
リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある	高リスク	高リスク	高リスク	高リスク																																							
リスク層	高値血圧 130-139/80-89 mmHg	I度高血圧 140-159/90-99 mmHg	II度高血圧 160-179/100-109 mmHg	III度高血圧 ≥ 180/≥ 110 mmHg																																							
リスク第一層 予後影響因子がない	低リスク	低リスク	中等リスク	高リスク																																							
リスク第二層 年齢（65歳以上）、男性、脂質異常症、喫煙のいずれかがある	中等リスク	中等リスク	高リスク	高リスク																																							
リスク第三層 脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のあるCKDのいずれか、またはリスク第二層の危険因子が3つ以上ある	高リスク	高リスク	高リスク	高リスク																																							
410	下から 10~11 行目	一方、介入試験のメタ・アナリシスでは、飽和脂肪酸摂取量の減少循環器疾患のリスクを 17%低下させるが、血圧への影響は認められなかったと報告している ⁷⁸⁾ 。	一方、介入試験のメタ・アナリシスでは、飽和脂肪酸摂取量の減少によって循環器疾患のリスクを 17%低下させるが、血圧への影響は認められなかったと報告している ⁷⁸⁾ 。																																								
411	下から 4~5 行目	また、介入試験のメタ・アナリシスは、 1日 のナトリウム摂取量 2,400 mg/日以上（食塩相当量 6 g）及び 50 歳未満において、DASH 食による血圧低下効果がより高いことを示した ⁹¹⁾ 。	また、介入試験のメタ・アナリシスは、ナトリウム摂取量 2,400 mg/日以上（食塩相当量 6 g）及び 50 歳未満において、DASH 食による血圧低下効果がより高いことを示した ⁹¹⁾ 。																																								

418	5～6 行目	栄養素摂取量との関連を記述する。	栄養素等摂取量との関連を記述する。
419	図 1	<p>図 1: 栄養素摂取量との関連を記述する。この図は、エネルギー、脂質（飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、食事性コレステロール）、炭水化物（水溶性食物繊維、糖質）、アルコール、たんぱく質の摂取が、肥満、脂質異常症（高LDLコレステロール血症、低HDLコレステロール血症）、高トリグリセリド血症にどのように影響するかを示しています。</p>	<p>図 1: 栄養素等摂取量との関連を記述する。この図は、エネルギー、脂質（飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、食事性コレステロール）、炭水化物（水溶性食物繊維、糖質）、アルコール、たんぱく質の摂取が、肥満、脂質異常症（高LDLコレステロール血症、低HDLコレステロール血症）、高トリグリセリド血症にどのように影響するかを示しています。</p>
425	下から 8 行目	2-3 高トリグセライド血症	2-3 高トリグ <u>リ</u> セライド血症
426	12 行目	トリグリセライドの低下がしめされ ²⁶⁻³⁰⁾ 、	トリグリセライドの低下が <u>示</u> され ²⁶⁻³⁰⁾ 、
450	eGFR の単位	mL/ <u>min</u> /1.73m ²	mL/ <u>分</u> /1.73m ²
454-457			
454	2～3 行目	たんぱく質摂取量の制限が推奨されている ²¹⁾ 。 <u>41)</u>	たんぱく質摂取量の制限が推奨されている ²¹⁾ 。
466	2 行目	ビタミンDは骨の石灰化を促進するため、ビタミンDの欠乏は石灰化障害を惹起し、類骨が <u>増加する</u> 小児ではくる病、成人では骨軟化症を発症させる。	ビタミンDは骨の石灰化を促進するため、ビタミンDの欠乏は石灰化障害を惹起し、類骨を <u>増加させ</u> 、小児ではくる病、成人では骨軟化症を発症させる。